

生きる力が輝いている イキイキリポート



みんな大好き！
ちきゅうは大切！



地球

ちきゅうっこひろば

っ子広場

「子どもの居場所づくり」新プラン
地域子ども教室推進事業（文部科学省委託事業）

平成18年度
事業報告書



はじめに

財団法人五井平和財団は、文部科学省が提起した「地域子ども教室推進事業」(子どもの居場所づくり事業)の委託を受け、平成17年度は全国21カ所、平成18年度には全国29カ所で「地球っ子広場」を展開してきました。

「地球っ子広場」は、地域の子どもや大人たちが自由に集い、様々な楽しい活動を通して共に学び合うための新しい「子どもの居場所」です。

「地球っ子広場」では、和気あいあいたる人と人とのふれあいの中で地域の文化習得、異文化理解、「心と生命^{いのち}」についての体験的な活動を通して、子どもたちが愛と調和と感謝の心を育み、寛容と利他の意識を自らのものとするよう努力を続けてまいりました。

また「地球っ子広場」は「国連持続可能な開発のための教育の10年(2005年～2014年)」に賛同し、その課題にも取り組んでまいりました。

おかげさまで、いずれの広場におきましても、子どもを独立した人格として認め、その尊厳を大切にす、当財団が理念とする『生命憲章』を基軸とした教育実践は、子どもたちはもとより、保護者、そして多くの地域の皆様に愛され、認知されてまいりました。

平成19年度につきましては、制度の変更がありましたが、市区町村の担当部門のご理解・ご協力を得ながら、国家100年の計である「教育再生」の大方針の実現に向け、なお一層の力を尽くしていきたいと考えております。

また、ここに平成18年度の活動報告を上梓するに当たり、ご指導・ご協力を賜りました文部科学省生涯学習政策局、全国の教育委員会をはじめ、行政、学校、NGO・NPO、企業そしてすべての地域の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成19年3月25日
財団法人五井平和財団



平成18年度「地球っ子広場」事業報告書

「子どもの居場所づくり」新プラン

地域子ども教室推進事業（文部科学省委託事業）

CONTENTS

目次

はじめに

01

目次

02

のびのび イキイキ わくわく 全国に広がる「地球っ子広場」

06

「地球っ子広場」の4つのねらい 五井平和財団の教育実践

07

「地球っ子広場」活動プログラム

08

3つのお約束について

「地球っ子広場」通信 -全国29ヶ所からのメッセージ-

09

▶ だて

10

▶ 奥州

▶ 仙台

11

▶ 本庄

▶ 五井

12

▶ 鎌ヶ谷

▶ 大田

13

▶ 品川

▶ 杉並

14

▶ 世田谷

▶ 小金井

15

▶ 横浜

▶ 川崎

16

▶ 葉山よこすか

▶ くりのこ

17

▶ 新潟

▶ 大野ひまわり

18

▶ 富士

▶ 名古屋

19

▶ タカラヅカ

▶ 甲陽園

20

▶ おうじ

▶ 徳島

21

▶ 南国土佐

▶ 福岡

22

▶ 夢つごろう

▶ 熊本

23

▶ 鹿児島

▶ おきなわ



24

「地球っ子広場」からの提言

25

専門分野からの視点

26

うれしい変化と共感の声 -子どもたちが変わった-

28

様々な交流の記録 -子育て支援者・保護者・地域の方々と-

30

平成18年度五井平和財団による「子どもの居場所づくり」事業計画

31

実践ガイドラインとコーディネーター・安全管理員の役割

32

文部科学省地域子ども教室推進事業「子どもの居場所づくり」

『生命憲章』全文



のびのび 伊伊 わくわく 地球ちきゅうっこひろばっ子広場

全国に広がる

平成17年5月に産声を上げた「地球っ子広場」は、初年度、日本全国北から南まで21カ所で素晴らしい成果を上げ、さらに2年目の平成18年度は29カ所に展開の場を広げました。五井平和財団が文部科学省より委託を受けて「子どもの居場所づくり」事業を実践した、「地球っ子広場」。お陰さまでこの2年間の全国での延べ開催回数は3000回以上に達し、各広場平均では100回を超える展開となりました。

多くの子どもたちの参加があり、保護者の方々、地域の皆さまのご理解とご支持によって支えられてきた「地球っ子広場」。そこには、子どもたちのイキイキした表情が溢れ、心も生命も響き合う和気あいあいたした時間が流れました。各地から届いた楽しい写真をご覧くださいながら、ここにみんなのありのままの素顔が輝く「地球っ子広場」を、ご報告いたします。

平成19年3月末までで地球っ子広場は

3164回

開催されました



平成18年は
全国29カ所で
開催されました





地球っ子って





サイコー だよ!!!



地球ちきゅうこひろばっ子広場について

「地球っ子広場」の4つのねらい

「地球っ子広場」は「心と生命いのちの教育」を実践する場として企画・展開されてきました。「地球っ子広場」の4つのねらいは、子どもたちのありのままの生命いのちを尊重しつつ、その活動を通して広い視野と利他の精神を自然に身に付けることを目指しています。

自立

自分のことは自分でしようという
意欲を育てる

調和

コミュニケーションや協力を進んで
実行する力を育てる

地球理解

世界に開かれた視野と、地球への
感謝の心を育てる

愛と平和

人のため、社会のため、平和のために
役に立ちたいと願う心を育てる

五井平和財団の教育実践

五井平和財団では、人類が共有すべき教育の原点は、すべて『生命憲章』に要約されていると考えています。また、ここにご紹介する「五井平和財団が目指す教育」は、「地球っ子広場」のねらいの根本となる考えですが、巻末の『生命憲章』と併せてご覧頂ければ幸いです。

五井平和財団が目指す教育

○教育理念

地球生命共同体の一員としての責任の自覚と使命の遂行。

○教育目標

上記理念の実現に資する能力と人格の育成。

○対象範囲

生涯教育の考え方を主軸として、社会教育、家庭教育、学校教育のすべてを幅広く対象とする。

○子ども観

子どもは、地球生命共同体の未来を担う尊い存在であり、肉体を持つと共に、内に高次元な地球生命共同体の一員としての意識を併せ持つ存在である。

○教育観

生命・意識というレベルにまで視点を深め、生きるということの本質を、大人も子ども共に学び合う。

○教育価値

1. 生命の尊厳
2. すべての違いの尊重
3. 大自然への感謝と共生
4. 精神と物質の調和

○教育実践

『生命憲章』実現の教育を目指し、各地に「地球っ子広場」を開設するなどして、現代社会が必要としている教育価値を世

に顕す。教育の実践は、大人も子どもも、人種、民族、宗教、政治など、あらゆる違いを超えて和気あいあいと交流し、遊ぶ中で、信頼感や安心感を醸成し、体験的に学ぶことを旨とする。

○行動規範

- 3つのお約束
1. 人に迷惑をかけない
2. 自分のことは自分でする
3. 余った力で、人の手助けをしよう

○現時点での重点課題

従来の学校教育では、生命、愛、調和、感謝などの精神的な価値観が取り上げられることが少なく、「心と生命」に関わる教育が不足している。また、本来「心と生命」について、より根源的に教えるべき役割を担っているはずの家庭、地域における、この方面の教育機能が十分に果たされていないということが懸念される。従って、現時点では五井平和財団では、『生命憲章』に基づく教育理念と教育価値を「心と生命の教育」という方向でメソッド化しつつ、地域に根ざした新しい教育の場づくりを推進している。

また、2005年に始まった「国連持続可能な開発のための教育の10年」(DESD)の趣旨にも賛同し、その諸課題にも取り組んでいる。

「地球っ子広場」活動プログラム

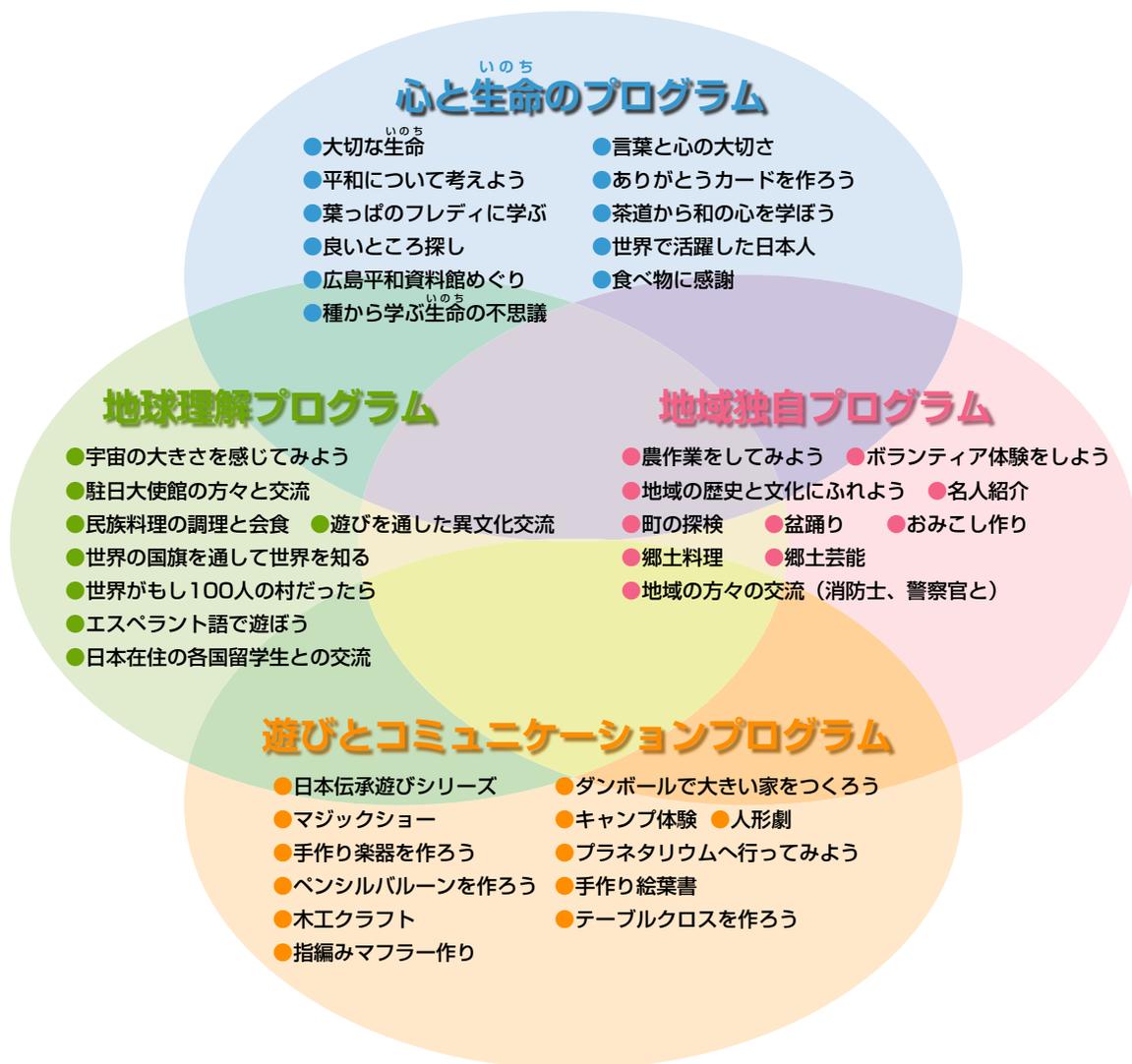
活動プログラムの特色

「地球っ子広場」の活動は人格形成に資する、「心と生命」の教育を重視し、和気あいあいたる交流を大切に展開されています。

それぞれの広場においては、子どもと指導者の個性・特性に配慮し、地域の特性を生かしたプログラムが企画・実践されています。

その内容は、五井平和財団の提唱する『生命憲章』の理念・原則の具現化を基本とし、4つの領域に広がっています。特に、「地球理解」については、「地球っ子広場」の運営母体である五井平和財団の実績ある分野で、ユネスコなどの国際機関や各国駐日大使館をはじめ、地域在住の様々な外国人の協力を得て、体験的なプログラムを展開しています。

プログラム概要



3 地球っ子広場 3つのお約束

- 1 人にめいわくをかけない
- 2 自分のことは自分でする
- 3 あまった力で、
人の手助けをしよう



このお約束は、「地球っ子広場」の一日のどこかで子どもたちみんな暗誦しています。

地球っ子広場の「ねらい」である「自立・調和・地球理解・愛と平和」を網羅する内容でもあります。この約束を皆で暗唱すると、子ども自身が心に留め、互いに、約束に即したあり方であろうという姿が見られます。

その効果を実感しているという声が次々と報告されています。そして、その声は大人たちからも上がっています。

全国29カ所からのメッセージ

地球ちきゅうっこひろばっ子広場通信

全国29カ所で延べ3,000回を超えて開催されてきた「地球っ子広場」。それは、「心と生命いのちの教育」を展開しながら子どもたちと過ごす、かけがえのない時間でした。そしてまた、保護者の方々や地域の皆さま、そして教育関係者の皆さまとのその時々貴重な交流の場でもありました。そうした出会いの中で、培われてきた「地球っ子広場」ならではの、みんなで大切にしてきたこと、現場の試行錯誤から創られてきたこと、発見等は枚挙いとまに暇がないほどです。

こうした豊富な広場運営体験を「地球っ子広場通信」と題し、「心と生命いのち」を育む子どもたちの居場所、2年間を経た「地球っ子広場」からのメッセージとしてここにご紹介します。関係者の皆さまと体験で得たことを分かち合い、これからの指針として様々な場でご参考にしていただければ幸いです。



コーディネーター **大村祐子**
ゆうこ

所在地 = 北海道
開催場所 = 「ひびきの村」ミカエルカレッジ



「子どもたちは大人を模倣する」

大人たちが「子どもは大人を模倣する」ことをしっかり自覚することがいちばん大切だと思います。特に、家庭のあり方、お母さんお父さんの関係は大事です。愛と調和と感謝の心で子どもをしっかり受け止めてあげれば、こんなに荒んだ世の中にはならないのではないのでしょうか。

「想像力をなくすゲームの世界」

子どもたちから、一刻も早く暴力的なゲームを排除しなければなりません。これは、大人の与える「悪」と思います。バーチャル世界では、死んだ人が簡単に生き返ってくる。子どもたちが想像力をなくし、生命いのちの大切さが分からない大変な思考を作っています。そういうことを大人が知り、即刻改める必要があります。

「魂を抱きしめてあげる時間を作ってください」

一人っ子のご家庭では特に、ゲームに子どものお守りをさせ、テレビに子育てさせているようなケースが多いのではないのでしょうか。だからこそ、お母さん、お父さん、子どもたちの今日一日のことを聞いてあげて、スキンシップをする時間を5分でも10分でも取ってください。そうして魂を抱きしめてあげてほしいと思っています。

今、子どもたちは熟通い等、分刻みのスケジュールをこなしています。「地球っ子広場」では、緩やかな時間、こちら側から指図しないこと、「3つのお約束」を大切に、人と自分を比べない、みんなが違っている、そういう広場を展開しているのは、心と生命いのちを大切にしたいためなのです。



コーディネーター **細川公子**

所在地 = 岩手県
開催場所 = 公民館・自然公園等



「地球っ子広場を通して人の輪が広がる」

地元の方々のご協力によって、「地球っ子広場」が展開できています。開設時よりスタッフに入っていただき、お陰さまで教育関係やさまざまな分野の方、外国人の方々にも輪が広がっています。そうした中で、『生命憲章』を始めとする大切なことをどうやってお伝えしていくかをいつも考えています。

「お互いに感謝をし合おうね」

一緒に遊んでくれてありがとう、連れて来てくれてありがとう、お迎えに来てくれてありがとう…感謝できるということは、みんなのいい所をしっかり捉えてこそできるのですね。でも、こういう心の教育は今の教育システムではなかなかカバーしきれない。だ

からこそ私たちはそこを掘り下げて、「何とかしましうよ」という熱い想いを発信しています。本当に、子どもたちには全てのことに感謝できるようになってほしいと思っています。

「生まれて最初にした事は？」

子どもたちは生まれてきたとき、誰に手伝ってもらわなくても空気を吸って、人間として細胞を動かす始めるわけです。だから空気を吸うことはとても大事なことのただけれど、その大切さを忘れている。そうした忘れられている当たり前のことの中に隠れている、数々の大切なことを見出し、伝えていくのも、先に生まれたものの役目なのだと思います。



コーディネーター **和泉日出子**

所在地 = 宮城県 開催場所 = 公民館



「子どもたちが大好き」

大人の側から子どもたちに「大好きだよ」と伝えていくと、子どもたちは「ここは勉強の場所じゃないから、みんなで遊べるんだね」と本当に安心して来てくれます。そして、「3つのお約束」を遊びの中で伝えると本当に分かってくれるのです。公民館などで、他の人たちの靴まで揃えて「きれいになってすごい気持ちいい」ですし、余った力で手助けができて、褒められる。子どもたちはこういうことをできないのではなく、周りが伝えていなかっただけ。「地球っ子広場」では本当に伝えたいことが伝えられるのがいいなと思います。

「自分の素晴らしさを認めよう」

ある子どもが、自分にはいいところがたくさんあるのに絶対に認めようとしなかったんです。自分の好き

なところがひとつもなかった。ところが数ヶ月後、その子が自分のことを好きになり、人のいい所まで見つけられるようになったのです。今、大人のほうに自分自身を好きになれない方が多いようですが、自分の素晴らしさを自覚していついていただきたいです。自分を好きになれたら、どんなときも絶対負けません。

「生まれてきたことの尊さ」

子どもたちはひとりずつ能力があって素晴らしい。ここはその素晴らしさを見つけていくところで、その練習もできるわけです。子どもたちから「みんなを幸せにしたい心を世界に向けて飛ばそう」とか、いろいろ提案も出ます。みんなすごい確率で生まれてきたのですから、この生きている喜びを掘り下げて、心にしっかりつかんでいきたいと思っています。



コーディネーター **堀川香織**
所在地 = 埼玉県 所在地 = 小学校



「想像力の芽を伸ばす」

子どもたちは、想像力が豊かで本当に素晴らしい。この想像力の芽を摘まない教育ができたらどんなにいいでしょうか。「地球っ子広場」だけでなく、あらゆる教育の現場で子どもたちの個性、創造性を伸ばすことを真剣に考えていかなければいけないと思っています。

「タテの関係を超えて、仲良く」

「地球っ子広場」に遊びに来る子どもたちは、あらゆる学年にわたっていますが、とても仲が良く、すごくうまくいっています。特に年齢を超えたタテの関係には感心させられます。年上の子どもたちは年少の子どもたちの面倒をよく見ますし、お互いが自然に

尊重し合っているのです。調和した社会の縮図がここにあると、いつも思われます。

「自然体の中から、大切なことが伝わっていく」

「地球っ子広場」設立当初は何かを教えなければという気負いがあったのですが、実際に活動を展開していくうちにもっと自然な形でいいのだというところに落ち着きました。当たり前、例えば仲良くすること、「3つのお約束」などが基本なのではないでしょうか。また学校の先生方、保護者の方々に温かく見守っていただいていることも、大きな支えになっていたと感謝しております。



コーディネーター **照井一子**
所在地 = 千葉県 開催場所 = 市民プラザ



「みんな家族だよ」

本当に家族的な雰囲気です。「地球っ子広場」をやっています。みんな家族、一人ひとりみんな家族だね、という思いです。これからも一緒に感動していこうねという気持ちを子どもたちに伝え、「地球に生まれてきてよかったね」ということを喜び合っていけるような場を創っていきたいと思います。

「自分も人も大切にできる場が、地球っ子広場です」

大人はみんな忙しい。保護者の方々、教育・子育ての関係者、学校の先生、みんな時間に追われています。何事もひとつの時間の区切りの中でやっていたらかなければならないという、忙しい中では、本当の血の通った子育ては難しいのではないかと実感して

います。だからこそ、子どもたちがゆったりとしたリズムの中で自由に自分を表現できて、自分を大切に思い、人のことを大切に思う場が必要です。これこそ「地球っ子広場」の真価ではないでしょうか。

「真実の知恵は愛の中にある、愛深き人間たれ」

この言葉に出会ったとき、真実の知恵を愛の中から見出していけるのなら、私の中からもきっと良い知恵が出てくるのだらうと思いました。いわゆる教育者ではない、ふつうのおかあさんが、「地球っ子広場」の実践を通して、『真実の知恵は愛の中にある』ことをこれから実践していきたいと思っています。



コーディネーター **住母家美奈子**
所在地 = 千葉県 開催場所 = 公民館



「愛されている実感」

子どもたちにとって、周囲の人たちから愛されているという実感を持つことがとても大切なんです。その感覚を得るためには、大人たちが指図したり、管理するのではなく、子どもたち一人ひとりの良さを発見して、もっともっと認めてあげる。いい所がもっと伸びていくように応援することが大切なのだと思います。

「世界にひとつしかない、^{いのち}生命の尊さ」

このことを、私たちも、保護者の方々、学校の先生方もしっかり意識して、その上で個性を尊重していく。尊い^{いのち}生命なのだという認識があってこそ、一人ひとりの違いが尊重され、個性が伸ばしていけるのではな

いでしょうか。みんな違っていいんです。一人ひとりが素晴らしい、そして、子どもたちには無限の可能性が秘められている。だからやればできるんだよ、ということ「地球っ子広場」を通して伝えていきたいです。

「子どもたちのメッセージは何？」

今何を考えて、何を発信しているのか、感じ取ってあげることがとても大切なのだと思います。そして、みんなのこと大好きだよ、という響きをこちらから発していく。勉強ができるできないとか、乱暴だとかいうことと全然関係なく、子どもたちの存在自体を受け入れること。生きている実感というか、「ああ、この子がいてくれてうれしい、会いたかったんだよ」という気持ちを感じてもらいたい一心で「地球っ子広場」をさせていただきました。



コーディネーター **中野恵子**
所在地 = 東京都 開催場所 = 区の文化施設



「子どもの居場所は絶対に必要です」

子どもたちが上から押し付けられることなく活動できる場所は、今、日本にどのくらいあるのでしょうか。学校も塾も、上から与えることばかりです。最近、もしかしたら子どもたちを大きな心で迎えて自由にさせてあげられるのは、「地球っ子広場」だけではないかと思うことさえあります。こういう場をこれからも続けていかなければいけないし、もっともっと広めていきたいと思っています。

「ひとりの子にいろんな場・人が関わる社会を」

ひとりの人がみられる子どもの数というのは限られています。子どもたちの目を見てひとりずつに声をかけたくてもなかなかできない状況があります。いろいろな問題を抱えた子、甘えたい子などが広場に来た

瞬間からくっついて離れなくなってしまうと、他の子をフォローできなくなってしまう。これからは社会全体として、十把一絡げでない教育が大切です。ひとりの子にいろいろな場が用意されていて、いろいろな人がフォローする、そういう環境を作ることができたら、子育ては変わっていくのではないのでしょうか。

「空気を整えることを心がけて」

子どもたちが来るときの気分はみんな違います。友だち同士で楽しく来る子もいれば、ストレスを発散しに来る子もいます。ですから、そうした子どもたちのどんな気分にも負けないスタッフの明るい空気が欠かせません。子どもたちが、真っ赤なすごく楽しそうな顔をして帰るのを見るのが、「地球っ子広場」をやっていてよかったなと思う喜びのひとつです。



コーディネーター **原田久恵**

所在地 = 東京都 開催場所 = 児童センター



『『調和』をテーマに掲げて』

品川の「地球っ子広場」でテーマにしてきたことは、「調和」です。「静」の茶道、「動」の演劇を活動の中心とし、そこから3つの大切なことを学んできました。それは、自分以外の人を尊ぶこと、他者に感謝すること、そのよいところを発見することです。

『茶道と演劇から体験する』

「静」である茶道では、思いやりとその価値観によって成り立っている規範の上に行動することで、自分以外の人への感謝と尊重が実践できました。また「動」である演劇においては、人の演技・行動を確認して自分の行動を決定するという作業の積み重ねの中で、他者の美点を見出します。それが他者への尊

重につながっていきました。

『共通の目的に向かって心をひとつに』

「3つのお約束」を毎回繰り返すうちに、子どもたちがその時々状況をよくわきまえるようになり、人に対しても次第に思いやりやありがとうの言葉を表現できるようになりました。そして「発表会」を行いました。共通の目的に向かって子どもたちもスタッフも心をひとつに創りあげていくことの素晴らしさを経験しました。繰り返し練習し、積み重ねていく体験は、本当に貴重です。「地球っ子広場・品川」のテーマである「調和」ということをそうした中から理解し、身に付けていってくれたと思います。



コーディネーター **荒川恭子**

所在地 = 東京都
開催場所 = カルチャー教室・公民館



『集中して、達成感を得ること』

本当に宝物のような子どもたちをお預かりしているわけですから、ケガのないよう、安全に過ごすことがいちばんです。次に、とにかく楽しい広場を、ということ。そして3つ目に、何かに集中して達成感を得るということを感じられるように心がけてきました。こうした体験は、将来子どもたちが何かをするときの大きな力になってくれます。

『一步一步の積み重ねが大きな夢を実現する』

イチロー選手が記録を出したとき「夢というもの是一朝一夕にできるものじゃありません」と言われました。やはり、日々の小さな積み重ねから大きな夢が実現するのです。夢と希望は大きく持ってください、そして、「地球っ子広場」に来て来なくても、私たちはずっと

応援していますよ、と子どもたちに伝えたいです。

『愛していることを表現してください』

保護者の方たちが子どもたちを本当に大切にしている、だからこそ「地球っ子広場」に理解を示し、子どもたちを参加させてくださいました。でも子どもたちの側は意外と愛されている実感が薄いようです。大人はもっと積極的にオーバーアクションな位に「子どもたちを愛している」と表現していいのではないのでしょうか。また、学校の先生方もものすごく忙しく、お一人お一人情熱を持っていても実際にはきめ細かく子どもたちに接するだけのゆとりがない。だから、ゆとりを持って子どもたちの存在を認め、愛をもって接することができる「地球っ子広場」のような場が、規模は小さくとも、数多くあれば、教育を動かしていくことができるのではないかと考えております。



コーディネーター **関 君江**
所在地 = 東京都 開催場所 = 児童館



「子育ての悩みを共に解決していきましょう」

今、みんな「向き合う」ことが怖いのではないのでしょうか。我が子でも、先生と生徒でも、もっと目と目を見合って、お互いに心を開く。すると信頼関係が生まれ、子どもが考えていることを自ずと把握できますから、いろいろな悩みや問題を解決していけると思います。大切なのは生命いのちとは何かをしっかりと教えること。その子の生命いのちが輝いたところで才能とか能力とか使命は必ず花開いてくると思うのです。世田谷ではお母様方のご希望があり、「子育て相談会」を続けさせていただくことになりました。競争社会の中で誰に聞くこともできない悩みを抱えているお母様方に、心を軽くしていただきたいと思います。これからは保護者の方々が積極的に「地球っ子広場」に参加してくださいという嬉しい流れもできております。

「留学生の方たちと遊びながら」

留学生の方たちにたくさん参加していただくよう心がけてきたことで、地球にいろんな人がいて言葉・習慣が違っても、「お兄ちゃんお姉ちゃんと同じなんだ」と一緒に遊びながら体で学んでもらえたと思います。留学生の方たちからも、ここでは「外国人」ではなく「ひとりの人間としていられる」と嬉しい感想が届いています。

「世界にたったひとりしかいないみんなだよ」

一人ひとりが可愛くて大事…と、心から示すと子どもたちも嬉しくて、みんなが響き合える。いい所を褒めると、自信につながり、できなかったことにもチャレンジしようとする。みんなが「地球っ子広場」を卒業しても、「地球っ子広場」の心を持ち続けて自分もお友達も大切に、世界に目を向けて大きくなってほしいと思います。



コーディネーター **池田多鶴子**
所在地 = 東京都 開催場所 = 集会所



「子どもたちの個性を引き出すには…」

「私はあの子のこういういい所を見たわよ」「私は…」。
スタッフも一人ひとり感じ方が違いますから、それぞれに子どもたちのいい所を見つけてお互い交換し合うのです。そうするとこれまで気がつかなかったいい所がどんどん引き出されてくるようです。やはり子どもの素晴らしさを認めていく教育が、これからは本当に大切なのだと思っています。

「『生命憲章』が根底にある確かさ」

どんなときも『生命憲章』の4つの原則（*巻末をご参照ください）にポイントを絞ることができます。

例えばお誕生会をするとき、一人ひとりの存在、生命いのちの素晴らしさを伝えられます。また、今後は食育

という方法も取り入れていく予定ですが、保護者の方も一緒に生命いのちの尊さ・食べもののありがたさなどを学べたら、と考えています。

「子どもたちの表情が違いますね」

スタッフのひとりが教育関係の仕事を始められ、「地球っ子広場」を離れました。その方が、離れてから「地球っ子広場」の良さが本当に分かった、「子どもたちの表情が違うし、自由で楽しい場だった」と言われました。居心地の良さ、温かい調和した雰囲気大切にしてきたことが、子どもたちにもちゃんと伝わっているのだと確認でき、スタッフ一同本当にうれしかったです。遊びを通して子どもも大人も共に喜び、共に学んでいくのが「地球っ子広場」なのだと思います。



コーディネーター **福元房子**

所在地 = 神奈川県 開催場所 = 集会所



「子どもたちは何が大切か知っています」

あるとき子どもたちに「朝起きてから寝るまでに大事なこと、みんなが生きていく上で大切なものはななに？」と問いかけました。「ご飯」や「お水」等いろいろ出つくして、「もう終わりね、それらをカードに書きましよう」と、まとめに入ろうとしました。そんな中、2年生の子が「ころ」と答えたことで、みんなから一斉に「そうだそうだ」と声が上がりました。すると一番のやんちゃな子が最後に「あ、いのち」と言ったのです。それぞれが挙がった中から5つ選んでカードに書いたら、たくさんの子どものがそのふたつを書いていました。

「『Believe(ビリーブ)』という歌をみんなで」

「地球っ子広場」では、3年ほど前から教科書に載

り始めた『Believe (ビリーブ = 信じる)』という歌を、毎回のプログラムのどこかで歌ったり、誰かに聞かせようなつもりで歌詞を読んだりしています。「未来の扉を開けてごらん、世界中の人の希望を乗せて地球は回っているんだよ…」という内容ですが、そうやって歌を通して、地球や人間の素晴らしさ、未来の素晴らしさというものをみんなと一緒に感じてきたのです。

「新しい時代の波に乗って」

教育観、世界観は今、急速に変化しています。これからは、心や生命のことをタブーにしておくわけにはいかないのです。まして、今の子どもたちはもう21世紀の新しい波に乗っています。教育の現場でも、心や生命のことを堂々と取り上げていってほしいということをごここに提言致します。



コーディネーター **相澤弘美**

所在地 = 神奈川県 開催場所 = 児童館



「子育ては聖職です」

教師という職業は聖職だというように言われています。だからこそ、教育に携わる先生方には本当に自分自身を省みて、教育者として自らを高めていく姿勢を持っていただきたいと思います。また、子育ても同じように聖職だと思いますので、保護者の皆さん、ご家族の皆さんも、また私たちのような子育て関係者も、みなそのように自分を見つめて、できるだけ自我を捨てて、愛いっぱい子どもたちに接していけるようになれば、本当に素晴らしいことだと思います。

「子どもたちの表情をよく見て」

子どもたちは「地球っ子広場」に来るときには、楽しそうに入ってきます。ところがちょっとした表情や些

細なことから「あれっ？」と思うような行動を取ることがあります。きっと学校か家庭で何かあったのでしょう。そういうときにそのサインを見逃さずすぐキャッチする眼差しと、そして、必要な対応をすることが大事だと思います。

「大人にもっと訴えてね」

子どもたちには、何をやりたいのか、何をするといきいきできるのかを、もっと大人に訴えてほしいと思っています。子どもたちは本当に生命そのもの。「地球っ子広場」で子どもたちと向き合いながら、子どもたちからいっぱい学ばせていただきました。本当に感謝でいっぱい、子どもたちに「ありがとう」と伝えたいです。



コーディネーター **かげひさかつ み 陰久克味**
所在地 = 神奈川県 開催場所 = 公民館



「手作りが脳を刺激する」

小さいころから手芸や、手作りをしながら登校拒否を乗り越えてきた自身の体験から、「地球っ子広場」でも「手作り」をメインに活動しています。もの作りをしていると、想像力が発達してアイデアが溢れてきます。まず手を動かすことで、脳が刺激されていくわけです。「地球っ子広場」には男の子も女の子も、もの作りをしたい子たちが集まってきて、ゲームやテレビがなくても自分の中から発想していくことを身につけていくのです。そして子どもたちが作ったものを持って帰ると、お母様方が大変喜ばれて「地球っ子広場」が口コミで広がっています。

「自由・自然体がモットー」

「ここにいれば自由なのよ」と、なんでも好きなことをできる場にしています。子どもたちの年齢にも幅があって、やりたいことがひとつにまとまるわけがないのです。だからそのまま自然体で、「ここは居心地いいね」と感じられる場をまず創ることが先と考えています。

「子どもたちのメッセージを聞こう」

大人が子どもに伝えるのではなく、子どもからのメッセージを大人が受け入れ、そこから私たちが何をすべきかを考えていきましょう。子どもたちには、心の優しさと芯の強さを持ってほしいということです。手作りや、言葉遊びなどいろいろな遊びを通して「自分の中の自立」を体験していくことが大切なのです。



コーディネーター **山浦弘子**
所在地 = 長野県 開催場所 = 公民館



「一瞬の判断で出てくるもの」

子どもたちと関わっていくとき、一瞬で判断しなければならぬことがたくさんありますが、そういう時、咄嗟に日頃自分がどういう生き方をし、どんな考え方をしているかが出るわけです。ということはやはり、自分がどういう価値観を持っているかということがいちばん大切ではないでしょうか。大人も子どもも同じです。その時々周りの人との関わりの中から、判断をし、選択し、その結果を受け取っていくわけです。

状況を乗り越えるということを意識的にやってきたつもりです。また、そのときに、決して「分析しない」ということを心がけてきました。

「観察すること、分析しないこと」

いつもスタッフと言っているのは、「よく観察しよう」ということ。「監督をする」ではないのです。観察をして、自分自身の中で知恵を絞って、さまざまな

「感性を磨きながら、知恵を使う」

現在の教育に関しては、どんな場合でも、感覚、感性といわれるものがとても大切な気がします。その感性を具体的な形に表すには、やはり知恵が必要です。知識ではなく、体験に基づいて生み出される知恵を使っていくことだと思います。子どもと関わりながら、本当に楽しい「地球っ子広場」の展開ができ学ぶこともたくさんで、子どもたちには感謝の気持ちでいっぱいです。



コーディネーター **井上真澄**

所在地 = 新潟県 開催場所 = 青少年センター



「優しさってなんだろう？」

優しく見える人と、優しい人は違います。優しさって何だろうということを考えて、自分で感じ取っていくプロセスが大切です。それは人からは見えませんが、周りからはわからないけれど、そういう部分を人の心の中に育てていくことが、教育の現場でもっとなされていかなければならないのではないのでしょうか。

「自分らしくあることは最高のこと」

誰もが世界でたったひとりの自分です。大人も子どももよりよい自分を目指していけばいいのです。そうしていれば、自分を尊重できるようになり、他の人も調和していけるし、人に言葉をかけることもできるようになるし、本音も言えるようになるのです。み

んなそれぞれ人とは違っていいのです。本当は、生きることはとても楽しいことで、生きているだけで素晴らしいことなのです。このことが子どもたちに伝わったらいいなと思っています。

「主体性を大切にしたい」

地元のお母さんたちにスタッフとして参加していただいているのですが、そうした方たちからも、具体的な希望に則した企画や運営に関わる提案がたくさん出ています。また、「英語で遊ぼう」という企画を地元のネイティブの方たちと始めたら、その企画に地元の帰国子女の方たちが入ってくれました。こういう内容が地域で望まれていると実感しています。



コーディネーター **松田幸子**
さちこ

所在地 = 福井県 開催場所 = 公共センター



「自分を好きになってね」

「地球っ子広場」では、子どもたちが自分を本当に好きになってほしいと思っています。大人たちが子どもたちをもっともっとよく見てあげて、それぞれ一人ひとりが素晴らしいんだよ、とまず認めていくこと。このことが本当に大切だと思います。

「自分のやりたいことを見つけて」

みんな生まれてきたからには自分のやりたいことがあるはず。それを見つけてられるように、例えば話を聞いて汲み取ってコーディネートする人がいたり、いい所を伸ばしてあげられるようになったらいいですね。そのためには子どもたち一人ひとりを認めてあげる教育が必要だと思います。そうすれば、世の

中で自分の希望する役割を担っていけるのではないのでしょうか。やりたいことを見つけて思いっきりやってほしい。「地球っ子広場」がもしかしたらそのきっかけになるかもしれない、と大きな可能性を感じています。

「素晴らしい世界が君たちを待っている」

子どもたちが大きくなったとき、やりたいことが思い切りできる素晴らしい世界を創るのは、私たちみんなの大仕事です。「素晴らしい世界が君たちを待っている」と、子どもたちに言いたいではありませんか。共に力を合わせて、成し遂げましょう。



コーディネーター **山下いづみ**

所在地 = 静岡県 開催場所 = 公民館



「地球っ子広場に遊びに来てください」

お父さん、お母さん、そして教育・子育てに関係者の皆さん、時間を作って「地球っ子広場」に遊びに来てください。この雰囲気、楽しさを肌で感じてもらったら…広場の私たちとすごく信頼関係が持てるし、子どもたちとの信頼関係もどんどんできてくるのではないのでしょうか。

「子どもは自然体、大人は自然児」

「地球っ子広場」ではまず安全第一、ケガのないように気配りをしています。その上で、自分を素直に出せるように、嬉しい、楽しい、悲しい、そういう感情をいつも自然体で表現できたらよいと思うのです。

「地球っ子広場」ではみんなが一体感を感じるよう

なプログラムをいろいろ実施してきましたが、これからも共に成長していきましょう、と子どもたちに伝えたいです。

「人材が大切な時代の教育とは？」

いま、日本という国はどのくらい人を大切にしているのでしょうか。人材が大切という時代にも関わらず、人への包容力、包括力が見えてきません。予算に対して、誰が何をやっているのかをはっきりさせて、本当に良い結果が出せるようにしなければならない。そのために変えていかなければならないのは、行政のシステムと高等教育のあり方です。子どもたちのために、未来のためにやらなければいけないことがたくさんあると思います。



コーディネーター **柴田則子**

所在地 = 愛知県 開催場所 = 一般家屋



「まず信頼関係を築くこと」

「地球っ子広場」では、コミュニケーションの時間をいちばん多く取っています。子どもたちが何を欲し、何を必要としているのかを本当に分かることが大切だと、開設当初より強く感じています。そのためにも、子どもたちとの信頼関係を築いていくことが何よりも重要です。

「一緒に学ぼうね、という姿勢」

大人が「教えよう」とするのではなく、自分も小さいころ分からないことがいっぱいあったのを思い出して、まずは一緒に遊ぶという原点に戻ります。例えば、生命の大事さを伝えたいとき、「生命は大事だよ」と正面から切り出しても子どもたちの心には響

いていかないし、むしろ嫌がられることもあります。子どもたちは心の中ではそのことを当然のこととしてよく分かっている、そこにどうアプローチしてどう引き出していくかが重要だと思うのです。

「子どもたちの本質を見つめて」

自由に楽しくやっていくうちに、子どもたちはいろいろなことを学び、大人も子どもも共に成長していくのではないのでしょうか。子どもたちは大人をよく見ているし、敏感です。真面目過ぎたり、少しでも強要したり、昔はこうだったのに…というような何気ない大人の態度やことばにも反発が出てきます。どんなときも、やはり子どもたちの本質を見て分かっていくことが大切なのではないかと思います。



コーディネーター **浅井恵子**
所在地 = 兵庫県 開催場所 = 小学校



「人と比較しないこと」

自分の心を苦しめるのは、人との比較です。後からしてみれば実に些細なことが苦しみの原因だったと気付くのですが、「比較する」という行為は、どこに価値観をおいているかが自分でも分からないという心理状態から生まれるのです。つまり、価値観というものが自分の中で確立してくると心が動揺しなくなってくるのです。お母様方にそういうことを分かっていたら、と思っています。子どもたちのいい所を見つけて褒めてあげると、劇的に変わってくるのです。その体験をお母様方にさせていただきたいと思っています。

「将来の熱中するものの足がかりに」

「地球っ子広場」では、普段学校ではできない体験をしてもらいたいと、プロの方に来ていただくこともあり、

何か熱中するもの、自分にヒットするものを見つけてもらえれば嬉しいことです。何年か先に「ああ、あの地球っ子広場が私の人生に大きく関わってきた」というように、お役に立つことができればとてもありがたいと思っています。

いのち 「生命の尊厳を根本に」

学校では必要な時間数や教科の内容など多くの制約があるかと思います。しかし教育ということを考えるとき、どんな制約の中でも、「生命の尊厳」ということを根底にして取り組んでいただきたいのです。子どもたちがありのままに、一生懸命何かに取り組んでいる姿を見ていくことがとても大切です。また、その姿を大人たちがしっかり見ていることは、そのまま子どもたちへの励ましになるのではないのでしょうか。



コーディネーター **福岡妙子**
所在地 = 兵庫県 開催場所 = 公共施設



「本当の教育って何でしょう？」

今の教育は、子どもたちを点数で評価します。子どもたちに向かって「あなたたちは頑張ったらこうなれるのよ」と示します。この社会に子どもが適応できるようにするのです。そして、それを「教育」と勘違いしている場合が多いのです。本当の教育ってそんなものなのでしょうか？ 本当の教育は、「一人ひとりがどんなに素晴らしいか」ということを思い出すこと、と考えています。

「素晴らしさを思い出そう！」

みんな忘れてしまっているのです、自分の素晴らしさを。「あなたは本当はすごい、本当はえらい、本当は素晴らしい」子どもたちにそのことが言いたいのです。思い出ささえすればいい、簡単なことなので

す。そして子どもたちだけでなく、大人も教育に携わる方々にも思い出していただきたいのです。スタッフはみんな、私たちなりの言葉で、このことをどのように伝えていけるかいつも考えています。

「『生命憲章』の4つの原則を元にして」

「地球っ子広場」を行うに当たっていちばん心にしてきたことは、『生命憲章』の4つの原則です（※巻末をご参照ください）。ここに大切なことは全部入っているのです。甲陽園では地域の方々がよくご協力くださって、非常にいい環境にあると思います。年齢を超えた地元の方との交流があり、自然との触れあいもあり、こうした中に「地球っ子広場」があるのです。『生命憲章』の精神が息づくこの場で、子どもたちに「本当の自分」を思い出してほしいと願って止みません。



コーディネーター **加藤貴子**

所在地 = 奈良県 開催場所 = 公共施設



「あなたの^{いのち}生命はたったひとつ」

今、子どもの自殺がたくさん起きています。自分を大切に思えないから、自分の生命を粗末にしてしまうのでしょうか。周りの大人たちが、折に触れて、その子どもに生命の大切さを伝えることができていたら、状況はずいぶん違ってくるのではないのでしょうか。非常に悲しい事件が起っていますが、年端もいかない子どもたちを思うと、本当にかわいそうでなりません。

「子どもたちは大人を反映しています」

親が競争社会を反映して子どもを追い立てれば、そういう子どもになります。学校でも、自分のクラスが荒れているとしたら、先生方も大変でしょうが、保護者の皆さまもとことん愛情を注いで、子どもたちに愛の姿を反映する気持ちでやっていただきたいと思いま

す。子どもたちに起こること、それはすべて大人の責任です。次の世代を担っていく子どもたちへ大人ができることを、昔の人たちが言ったように「生命を懸けて」やっていく、今そういう真剣さが求められているのだと思います。

「実感として体験することの貴重さ」

「地球っ子広場」では「葉っぱのフレディ」や「ガラスのうさぎ」等の生命の大切さを扱った教材を用いましたが、それは『生命憲章』の精神を、言葉で直接的に表現するのではなく、心で伝えたかったからなのです。子どもたちはお話を通して死の悲しみを感じ、生命の尊さを、実感としてつかんでくれたのではないのでしょうか。たくさん子どもたちが集まってくれる場で、いろいろな形で表現でき、みんなで生命の尊さを感じ取る時間が持たることが本当に良かったと思っています。



コーディネーター **郡 節子**

所在地 = 徳島県 開催場所 = コミュニティセンター



「家族的な温かさの中で」

市の教育委員会を通して近隣の小・中学校6校に毎月の「地球っ子広場」の情報を配布し、子どもたちの様子を知っていただくと共に、先生や学童担当の方々ともコミュニケーションを取ることができました。また地域においては、地域のお年寄りに「地球っ子広場」へ参加していただきました。3世代の交流をしながら家族的な温かさの良さを再確認しました。

「子どもも大人も共に学ぶ」

地域のおまわりさんや消防士さんにご協力いただき、パトカーや消防車の体験をしました。自動車教習所のご協力で、車やバイク、大型車を使った交通安全の体験実習をして、安全に対する意識を高めることもで

きました。子どもたちと保護者の方たちが共に学ぶ機会は本当に貴重です。地域の方のご協力があつてこそ、こうしたプログラムを実現できました。

「子どもたちの心の叫びに耳を傾けて」

子どもたちは、現代の価値観が多様化する社会に翻弄されています。子どもたちの表面的な姿に私たち大人が惑わされずに、本当の心の叫びをキャッチしていかななくてはなりません。その役割を担うのは私たち大人です。これからは、『生命憲章』を基とした子どもも大人も共に参加できる、「地球っ子広場」が各地でさらにたくさん展開されることを願っています。



コーディネーター **田中滿意**

所在地 = 高知県 開催場所 = 合気道道場・自宅



「子どもたち—眠れる獅子が目を覚ますように」

教育の原点は、愛情と、大人に対する子どもたちの信頼です。この関係を築くことが大切だと思います。問題のあった子どもたちが本当に変わりました。暴れていた子たちがしっかりしてきて、子ども同士で自主的に勉強をして成績がよくなり、仲間意識も生まれました。運動会でも頑張りました。不登校の子が、お父さんと合気道の稽古をするうちにコミュニケーションがとれて、突然学校に行き出す等、素晴らしい成果が生まれています。

「体で覚えることを重点的に」

昔ながらの竹馬、七夕のから籠馬作り、こま独楽回しといった遊びをしたり、自然と触れ合うために大根やエンドウを蒔いたり、芋を植えたり掘ったりもしました。体で覚えることを重点的にやりました。また、毎週合気道をやっています

が、受身ひとつですぐにできる子とできない子があり、右が得意、左が得意等の違いもあります。でも「それでいいよ、みんな違うんだ」と、人との比較をしません。そして、できたとき褒めますと、どんどん上達して素晴らしい可能性を発揮するのです。

「知識偏重からの脱却を」

昔から「知・徳・体」といわれますが、点数だけで子どもたちを評価しては知識偏重です。一人ひとり得意な範囲が違うのですから、勉強の優れた子、体育の優れた子等いろいろです。それを平等に評価すればもう少し変わるのではないのでしょうか。また、いいコースに乗るためには予備校に行かなければならないというような現状を、早く何とかしたいものです。6年生の一番大切なときに予備校に通わざるを得ない…非常にもったいないと思います。



コーディネーター **上杉ちる子**

所在地 = 福岡県 開催場所 = 市民センター



「自由な雰囲気の中、子どもたちの流れに乗って」

今日の広場ではこれをしよう、と、前もってテーマを決めますが、実際はその場の雰囲気に合わせていろいろなことをしていきます。学校ではできないことを体験してほしいですし、自由に子どもたちの流れに乗っていくのです。それは、子どもたち一人ひとりの存在そのものの大切さを伝え、愛情を伝えていきたいからなのです。

「自分を好きになろうね」

自分を好きになって、本当の自分を大切に、自分を上手に表現して欲しい。それからもうひとつ、何か自分にとって「これ」というものを見つけて、それを生かして世の中のために役に立つことを見つ

けて行ってほしいというのが、私たち「地球っ子広場」から子どもたちへのメッセージです。

「和の心を取り戻し、おらかな世界を築きましょう」

子どもたちは小学校のときから競争にさらされています。保護者の方々はそのストレスから子どもたちを守らなければなりません。そして教育現場の方々には、一人ひとりのDNAに刻まれた日本人本来のおおらかなさ＝和の心を取り戻す教育をお願いしたい。心豊かに自分も人も共に生きる世界を創る、それが子どもたちのためであり、また日本の課題ではないかと思っております。



コーディネーター **藤井文子**
所在地 = 佐賀県 開催場所 = 公民館



「結果ではなく、プロセスだけを見ている世界があるのです」

「地球っ子広場」でいろいろなことをしていく中、
どういう気持ちで子どもたちが臨んでいるのか、そのプロセスを大切にしています。結果だけを見るのではないのです。みんなの心の、思いやりだったり、優しさだったり、そういうところをみつめながら「そのままでもいいのだ」という安心感を与えていきたい。競争社会で生きていることに誰も気付いていないのです。その価値観から抜け出るといことは、私個人の体験からも絶対に必要なことだと思います。また、何かあったときも、大人自身が堂々と責任を取ることで、責任を逃れようとする態度に子どもはいちばん傷つくのです。子どもはやはり大人の後姿を見ているのだと感じます。

「子どものいい所に意識を集中する」

騒いだり、イタズラだったり、子どもたちの良くない面が見えていた時期もありましたが、あるときからどんなに考えても仕方がないと思い、本当に良い面だけに集中できるようになりました。そして「みんなこんなところが素晴らしいよ」とファックス等で伝えますと、子どもたちは次の「地球っ子広場」に本当にこやかに遊びに来てくれるようになりました。

「みんなキラキラ輝いているよ」

子どもたちに一人ひとりの輝きを伝えたい…そして、どんなときも、今しかないこの素晴らしいときを一緒に和気あいあいと過ごしていこうと伝えたいのです。



コーディネーター **井上誠一**
所在地 = 熊本県 開催場所 = 院内内会議室



「地球っ子広場には理念がある」

2006年12月、熊本県教育委員会の関係で、子どもの居場所づくりに関係した42団体が一堂に会する発表会がありました。そのとき、皆さんに興味を持っていたのは、「地球っ子広場」には「理念がある」ということでした。「地球っ子広場」の明確さ、どこへ向かっているかが見えているのは非常に大きい特色なのだと教えていただき、そのあり方に確信を深めています。

「子どもが子ども時間を過ごせる場が必要じゃないかな」

ここは、子どもたちの生命いのちそのままをのびのびと出せる、そういう場です。子どもたちにとって、学校、家庭、「地球っ子広場」、それぞれに場が違うと思いますが、「地球っ子広場」に来ると、大人の都合で作られた子

ども時間ではなく、子ども自身の本来の時間を過ごしているのです。いきいきしている、何かを一生懸命やっている、そのことを純粋に褒めてあげられる環境を創ることができたと思います。

「3つのお約束を基本にして」

広場の終了時、「3つのお約束」ができたかどうか「自分のことは自分でできましたか?」と聞くと、みんな手を挙げます。「人に迷惑をかけませんでしたか?」誰もかけたと思っ
ていません。「余った力で人の手助けができましたか?」。ひとりの子が手を挙げました(いちばんのイタズラっ子ですが…)。「何に余った力を使いましたか?」と聞くと「いろいろやったよ」と言うので「そうか、よかったね」と答えました。例えば人を叩いたりしていても、本人としてはいろいろ手助けをしたつもりです。「余った力」も解釈がいろいろですが、「3つのお約束」が浸透している手応えを感じます。



コーディネーター **内村真喜子**

所在地 = 鹿児島県 開催場所 = 古民家ほか



「子どもたちは今日どんな状態でここに来るのでしょうか」

たった今まで楽しかったのに、ちょっとしたひと言で雰囲気がガラッと変わってしまったことがあります。ものに当たったり、子ども同士のケンカが始まるやり場のないエネルギーはどこから来るのか、そのきっかけには大人たちが見落としているなにかがあるのではないのでしょうか。みんな仲良くしたいのにその流れが変わってしまうとき、子どもたちだけに任せず、一人ひとりがどういう状況なのかもっともっとうよく見ていく必要があると思うのです。

「心を沿わせることを大切に」

保護者の方々に子どもたちの現実にもっと接し、もっと見ていただき、一緒に考えていくための場も月

に一度開催しています。皆さまに参加していただけるゆとりのあるスペースで、子どもたちが「3つのお約束」に取り組み、みんなが一つに打ち解けていく過程も知ることができます。子どもたちを愛の心で見つめ、共に成長していく、そうした場に保護者の方々、地域の方々がもっと参加して下さることを期待しています。

「一人ひとりが本当に素晴らしい」

「3つのお約束」をみんなが自分のものとして捉え、大人が子どもに心を沿わせていく、そんな心と生命の輝き場が「地球っ子広場」です。そういう場で共に過ごしながら、子どもたちに、一人ひとりがみんな素晴らしいのだということを伝えていきたいと思います。



コーディネーター **仲田恵美子**

所在地 = 沖縄県 開催場所 = 公共施設ほか



「大人はもっと自然体でいい、子どもから学べるんです」

大人は社会経験を積んで、いろいろな重たい衣を着て、それを脱いで自然体になりたいのになかなかできません。でも子どもは本当に裸の心でぶつかってきます。その中で、戸惑いながらも遊んで、大人もすごくいきいきしてきました。本当の心とか本質的な大切なことは、実は、大人が子どもたちから学べるのだと思います。

「子どもたちと一緒に走って汗かいて」

「地球っ子広場」では、常に自然体で子どもの目線に立つことを心がけてきました。それと、自分がいちばん楽しもう、ということ。子どもたちを公園で遊ばせて、自分はベンチで傍観者というあり方でなく、スタッフ全員が自分も共に楽しもうとしてきました。

お陰さまで保護者の方々から「地球っ子広場は楽しい」「また来たくなる」と言ってもらい、お母さん方にもとても喜んでいただいています。また、地元の自営業の男性の方が「こういうのいいですね」と言って下さったので、「どうぞご参加下さい」と申し上げます。

「大人になっても一緒にお話ししようね」

問題を抱えていた子がたくましく変わってリーダーシップを取るようになったり、本当にどの子も素晴らしいのです。「大好きだよ」とひとりずつ抱きしめて、「大人になっても一緒にお話ししようね」と言ったらすごく喜んで…。ありがとう、あなたたちのパワーはすごいんだよ、と、そういった心を子どもたちに伝えていきたいです。

地球ちきゅうこひらばっ子広場からの提言

「地球っ子広場」において、子どもたちの姿を見つめると、その背景にある現代社会の問題や歪みまでもが浮き彫りとなって表れてきます。それは同時に、五井平和財団が提唱する『生命憲章』に抵触する部分でもあります。子どもの時代は二度と戻ってまいりません。その貴重な時間をよりよく過ごすためにも、子どもの生命を輝かせるためにも、今一度現代の教育や社会について考察し、提言させて頂きたいと思います。

1

いのち 生命を軽んずるゲームはNo!

今、子どもたちの間では、TVゲームやコンピュータゲームが流行っています。

そのゲームの中には、生命を軽んじる内容のものが多数あります。仮に「R指定」であっても、本人が「やりたい」と思えば、難なく購入できてしまうのが現状です。そんなゲームばかりに没頭する子どもたちはどうなってしまうのでしょうか。

ゲームをやりながら「殺せ」「死ね」という言葉の連発。いとも簡単にたくさんの人が死に、さらに簡単に生き返ってしまうのです。あまりにも安易に生命が扱われていませんか。少年犯罪などにおけるゲームの影響は計り知れないものがあります。周囲の大人はそのような類のゲームを購入させない、買わせない毅然とした態度が求められるのではないのでしょうか。売れるから作るという悪循環を断ちましょう。CSR(企業の社会的責任)に訴え、生産や販売に規制をかけていくことも必要です。子ども時代の大切な時間は二度と戻ってこないのです。

2

みんな違ってみんないい

現在の教育現場では、皆同じように学習レベルの向上を図る必要があるという事情もあり、ほとんどが通常級とハンディキャップのある級とに分かれているのが現状です。

それはハンディキャップを持つ子どもへの対応や支援のためでもあります。逆に一定の枠をはみ出すと、障害という「レッテル」を貼ってしまうような一面もあるのではないのでしょうか。

「地球っ子広場」では、『生命憲章』原則2「すべての違いの尊重」を実践すべく、すべての子は「一人ひとり違っていいんだよ」「そのままでもいいんだよ」というスタンスで活動しています。そのため一部の地球っ子広場では、ハンディキャップのある子どもと通常級の子どもと分け隔てなく受け入れています。そこでは子どもたち同士が協力し合い、自然に調和しています。

地球は健常児のためだけの世界ではありません。すべては大切な同じ生命、尊い存在なのです。

3

大自然からの学び~真のゆとり教育を!

現代の日本は、あまりに忙しすぎませんか。

「地球っ子広場」ではよく野外活動をします。今ではなかなか体験できない、土のおい、土の感触、四季の移り変わり…そういった直接触れる体験を大切にしています。

そのプログラムの中の一つに農作業があります。時間をかけてじっくり自然と向き合うのです。種を蒔き、実が育つまでの過程において、雨が降り続けば育ちにくく、逆に雨が降らなければ枯れてしまう、ということを経験することで、大いなる自然への感謝が培われます。そして、大切に育てて、無事収穫することができた折には、かけがえのない「体験」という宝物が子どもたちの中に刻み込まれていることでしょう。

自然の時間はのんびりゆったり過ぎていきます。その時間こそが真のゆとりであると言えるのではないのでしょうか。

4

競争社会からの脱皮

「地球っ子広場」では子どもたちだけではなく、保護者の方からもご相談を受けることが多くあります。お話を伺って感じるのは、保護者もストレスを抱えているということです。

そしてその苦しさの原因のひとつには、自分のことを心から好きではない、自信が持てないということがあるようです。それは誤った価値観により、小さい頃から劣等感を植えつけられている、ということからきているのではないのでしょうか。

保護者の方たちも「競争社会」を生きていました。他から比較され、他人よりよい大学、よい就職、と、周りからプレッシャーを与えられ続けてきたのです。その反動が、子どもをよい学校へ入れたいための塾、ブランド物を身につけるといった、物質の豊かさで心を満たす方向へ行ってしまうのだと思います。

物質偏重の社会、競争社会は既に限界を迎えつつあります。そのような社会は卒業して、心の豊かさによって価値を置く社会を築いてまいりましょう。そんな社会を創ることが、ひいては子どもの心の豊かさ、生命の輝きにつながっていくのです。

「地球っ子広場」はさまざまな分野の方にご支援を頂いております。そうした中から、この度「地球っ子広場からの提言」に寄せて、現代の子育て、教育の可能性等についてのメッセージを頂きました。自閉症児と健常児の混合教育の専門家でおられる長内博雄氏、教育学を専門とされる内山宗昭氏、そしてシュタイナー教育の実践者でおられる大村祐子氏の3人の方による「専門分野からの視点」を、ここにご紹介いたします。



武蔵野東教育センター所長
前武蔵野東中学校校長
長内博雄

日本をもう一度「子どもの国」に

江戸・明治初期に来日した米国人の動物学者モース。彼は「日本は子どもにとって天国である」と記しています。彼がそう感じた理由はおそらく周囲の大人が子どもたちを温かく見守り地域ぐるみで子育てをする、という当時の環境があったからではないでしょうか？

私は毎日、発達障害をとまなう子どもたちの元気な顔に接しています。一人ひとり、成長していく姿を見られることは一番の喜びです。保護者からも「信じられないくらい成長をし、親として胸が熱くなります」という感想を頂いております。

子どもたちの言い分は心の中にたくさんあります。それが言葉に出るとは限りませんが、自分を認めてくれることは、子どもの成長にとってこの上ない良薬です。子どもから発せられる小さな信号を周りの大人がキャッチして子どもの心に寄り添うことが大切だと思います。



工学院大学助教授
内山宗昭

限りない可能性を内包する「地球っ子広場」

地球っ子広場は、今社会的に要請されている様々な教育課題に直接間接に応えていると同時に、その内容はさらに世界や未来に開かれた可能性を持っていると考えます。子どもたちの広場でありながら、そこには多文化教育や環境教育、生涯学習や地域に広がりを持つ教育、世代間の交流等々、多様なテーマを含みつつ、一貫して『生命憲章』の理念である生命観や世界観を深めることが重要な軸となっています。多様にみえる課題も一つところに帰着するのもかも知れません。個々人の発意創意によってふくらみ、組織的な枠組みを広げていき、将来的には子どもからの発信と素晴らしいネットワークをつくっていくことまでが期待されるのではないのでしょうか。



「ひびきの村」
ミカエルカレッジ 代表
大村祐子

真・善・美なる存在へ

子どもたちはだれもが課題を持ち、また使命を持って生まれてきます。わたしたち大人の役割は、一人ひとりの子どもが、自らの課題を見出してその課題を果たすことを促し、使命を遂げることができるよう手助けすることです。そのために、わたしたちは子どもの内に世界を感じる心（感情＝徳）と、感じたことを考える力（思考＝知恵）、そして感じ、考えたことを自分の手足を通して行為する力（意志＝力）が育つよう導かなければなりません。それは、美しいものに触れること、善なる人と出会うこと、真理を学ぶこと、を通して可能になります。それはまさしく、わたしたち自身が美と、善と、真を具えた存在となることが求められているということなのです。

NETWORK

専門分野からの視点

うれしい変化と共感の声

—子どもたちが変わった—

そこには、子どもたちのうれしい顔、楽しい顔がいっぱいです。ありのままの素顔が輝いています。平成18年度の「地球っ子広場」も、全国29カ所で素晴らしい変化が数限りなく起きました。その報告から、子どもたちの変化のエピソードと、保護者の皆さま、地域の皆さまの感想のごく一部をご紹介します。「3つのお約束」と「生命憲章」の精神が、「地球っ子広場」に集うすべての子どもたちと関係者の皆さまの心に響いていった結晶化の記録です。

以前は周りにはまったく無関心だった子どもが、後片付けを一人でやっている友達を見てから、進んで手伝うようになりました。

初めのころ、「3つのお約束」を恥ずかしがったり、茶化していた子どもが、毎回言っているうちに「ボクがやる!」と進んで言うようになりました。

ある女の子の変化。「地球っ子広場」に参加するうち、「オシ」が「私」に、「〇〇じゃねえし」が「〇〇なの」に。話し声もなめらかに変化しました。

なんでも大人にやってもらうのが習慣になっていた子どもが、「自分のことは自分でする」を口に出して言ったあと、誰にも頼らないで後片付けするようになりました。

何かトラブルになりそうになっても、子どもたち自らが「人に迷惑をかけない、だったよね」と、進んで声を掛け合うようになりました。

荀掘りをしたとき、「荀は今まで嫌いだったけど、すごく美味しかった!」。嫌いだったものが食べられるようになりました。

「地球っ子広場」は2年生から5年生までタテつながりの場で、最初は子どもたちに戸惑いもありましたが、そのうち子どもたち同士で仲直りしたりルールを作ったり、自主的に行動を取るようになりました。

学校の宿題を時間をかけても済ませられなかったのに、「地球っ子広場」に行き始めたら驚くほど早く済ませるようになりました。

厳しい表情で、一人でうるさい音を立てながら遊んでいた子どもが変わりました。「ありがとう」の歌を歌っている輪の中に入れるようになり、その後、「お水さん、ありがとう」のプログラムにも参加できたのです。絶対に人を寄せ付けなかった子どもの心に「ありがとう」がしっかりインプットされ、優しい表情を見せてくれるようになりました。

上級生の子どもたちが、年下の子どもたちの面倒をよく見て、中にはスタッフの手伝いまで積極的にしてくれる子どもも出てきました。

子どもたちに自主的な気持ちは芽生え、受身から能動的に変化しました。

自閉症児 T くんの変化

「地球っ子広場」に参加してから、マンションのゴミ置き場にひとりでゴミ出しに行くなど目覚ましく変化。心が安定して、突飛な行動も見られなくなりました。ご近所の方からも、驚きと感激の声が上がっているそうです。調和を好み、人の心のつらさを敏感に感じて反応し、人が泣いているとそばへ行き、「大丈夫だよ」と優しく気遣います。七夕の短冊に「平和がせ〜んぶ広がってみんな幸せになりますように」と書き、お母さんを始めみんなが感動しました。

障害のある H ちゃんの変化

初年度、「3年生ですが、4歳くらいの知能です」とおっしゃるお母さんと妹さんと一緒に参加された H ちゃん。人見知りが激しいということでしたが、3ヶ月経ったころからだんだんコミュニケーションが取れるようになります。翌年度も参加され、阪神大震災で亡くなられた加藤はるかちゃんの、「はるかのひまわり」の種をみんなと一緒に蒔きました。芽が出るのと畑に行き、観察して花を楽しみにするようになりました。このころ、自分からスタッフに挨拶できるようになりました。次第に子どもたちと遊べるようになり、学校の帰りに一人で「地球っ子広場」に来るようになりました。お母さんはお迎えだけに来られます。今では、「ただいま」と「地球っ子広場」に帰ってきて、みんなと遊び、お話をします。学校でも「地球っ子広場」の仲間を見つけると手を振ったり親しみを示します。この2年で著しく成長されました。

子どもたちの声

- お母さん、あんまり早く迎えに来ないでね。
- 「サムシング・グレートって何?」「内なる母のことだよ」子どもたちの会話から。
- ここはボクの特別な居場所だ。
- いやなこともわすれられる。つかれもとれる。
- これからも、なごみの場があったらいいな。
- お母さんがかえてくるまで一人でいるぼくをまかせてくれます。だから安心です。
- 「あしたは地球っ子あるよ！ 楽しみだね。おやすみ〜」と、前の晩寝る前に。

保護者の皆さまから

- 親心を形にしてくれたのが「地球っ子広場」でした。
- 引っ越してきたばかりでも、お友達が出来て、子どもが喜んでいます。
- 「自分勝手」と「自由」の区別を体で覚え、いろいろな人と関わることで「一人ひとり違う個性」や「思いやる心」を教わりました。
- 「地球っ子広場」が★満員★なの、わかりますよね！
- 帰ってくると、大喜びで子どもから得意そうに話し始めるんです。小さな家族ではなかなかできない貴重な体験をさせていただきました。
- 芋掘り、ロウソク作り、正月の着せ袋作り、大縄跳びも生まれて初めての経験で、引っ込み思案だった娘がイキイキと喜んで話をする。話を聞くと私までうれしくて、楽しくて。
- 「地球っ子広場」で作った指編みのマフラーをプレゼントしてくれて、「寒いから、しときよ」と気づかってくれます。
- 親としてはあれもこれもつい欲張り過ぎるのが常ですが、「地球っ子広場」に行く間に「もっとゆったり…」と感じるようになってきました。
- 月一回でもいいから、続けてこのような機会があれば大変うれしいです。
- この2年間の「地球っ子広場」は、子どもたちの心に、尽きることのない愛情と未来につながる希望と探究心という素晴らしい種を蒔いてくださいました。

様々な交流の記録

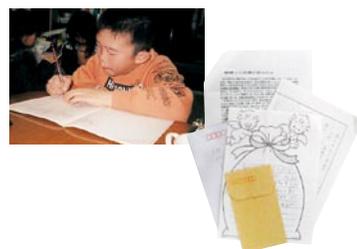
—子育て支援者・保護者・地域の方々と—

全国29ヶ所での「地球っ子広場」は、たくましく根を張り枝を広げてきました。そして、保護者の方々、地域の皆さまにも、多大なご協力とご支持をいただきました。これまで築き上げられた多くの方々との協力関係が、全ての広場で貴重な財産となっています。その中から、一部の事例をご紹介します。

小学校と連携する地域のマザー・テレサ

南国土佐

「地球っ子広場・南国土佐」では、地域の土佐市立高岡第二小学校の校長先生や教員の方々と頻りに連絡を取り合い、必要に応じて、学校職員会へ出席しています。職員会では、「地球っ子広場」からの報告、学校での子どもの様子など、活発な情報交換が相互に行われています。学校や居場所の枠組みを超えて、子どもや保護者への対応を校長先生や担任の先生と共に話し合うこともしています。子どもにとっては、「地球っ子広場」は、まさしく「心の居場所」。保護者の方々からも、良き子育てアドバイザーとして、大きな信頼が寄せられています。



土佐市立高岡第二小学校 校長先生のお手紙より

放課後や休みの日など、地域や家庭に居場所がない中、心休まる場所が、「地球っ子広場」です。「地球っ子広場」の活動は、子どもたちの放課後の楽しみです。子どもたちの放課後の会話は、「今日は、田中のおばちゃん（地球っ子広場コーディネーター）の家に行く」と、毎日、田中さんが家にいることが当たり前のように思っていて帰っていきます。子どもたちの中には、「ただいま」と言って家に来る子どももいるそうです。コーディネーターさんの優しい人柄が、子どもたちと接する中で伝わってきます。今までは、ちょっとしたことで「キレる」行動があったり、不機嫌になって他に当たっていた子どもが、今は「キレる」行動がなくなりつつあります。「なぜキレないようになったのか」と子どもに聞くと、「お茶を習ったことで、キレなくなった」そうです。また、保護者の帰りが遅い児童は、田中さんの家で、夜8時ぐらいまでいるそうです。両親の帰りを待ちわびている子どもや、不安定な子どもが、「地球っ子広場」があることにより、学校ではない、異年齢の仲間ができ、連帯感が芽生え、地域の中で安心して生活している児童がたくさんいます。

土佐市立高岡第二小学校 四年生担任のお手紙より

子どもたちと学校でゆっくりと向き合うことが年々難しくなっています。たとえば、学習でつまずきのある子、友達関係がぎくしゃくしている子、保護者になかなかかまってもらえない子がたくさんいます。学校にいるどこかの時間に話を聞き、そばにいたいと思いますが、なかなかそのような時間は取れません。本校の児童の多くは、両親が働き、帰宅しても誰もいないという子どもです。そんな中で、子どもたちの口から「今日も、田中のおばちゃんのところへ行こうか」とか「宿題やった」などという言葉が聞くとほっとします。「地球っ子広場」は、ただ遊び場を提供しているのではないと思います。場所を提供しながら、子どもたちが自ら決まりを考え、実行していくように道筋を考えてくれています。それは、社会のルールを守ることや友達や周りの人にやさしく関わろうとすることにつながるのではないのでしょうか。今、子どもたちの内面を育てるには、家庭だけでは難しい時代です。子どもたちにとって、大事な場所であるこの「地球っ子広場」を、これからも継続して欲しいと切に望むところです。

アイデア賞を受賞!

本田技研工業株式会社 社会活動推進室による「子どもアイデアコンテスト」に参加。「地球っ子広場・杉並」からの子ども2名がアイデア賞を受賞しました。



カチャーシー大会に出場!

「地球っ子広場・おきなわ」が、大会参加で一つの目標に向かい、すてきな思い出を作りました。

青少年愛護協議会(青愛協)からの賛同と信頼

甲陽園

甲陽園地区青少年愛護協議会からの心強い賛同と信頼をいただき、この2年間、地域に根ざした力強い活動を展開してきました。たくさんの協同作業の中のひとつには、青愛協とPTA、そして「地球っ子広場」の共同企画で、甲陽園小学校創立記念行事「甲陽園とアルジェリアとの交流会」の開催もありました。青愛協の会長さんからは、「地球っ子広場」と青少年愛護協議会が手をとりあい、さらに活動を継続していきたいとの申し出をいただいています。



青少年愛護協議会 会長のお手紙より

年間60回近い多種多様なプログラムを2年間、この甲陽園で展開して下さったことに心よりお礼申し上げます。この間のスタッフの方々とふれあいや経験は、「地球っ子広場」の子どもたちの心に、尽きることのない愛情と未来につながる希望と探究心という、素晴らしい種を蒔いてくださいました。「地球っ子広場」を経験した子どもたちが将来どんな世界に翔いていくか、本当に楽しみに思っています。平成19年度からも、「地球っ子広場・甲陽園」がさらに子どもの居場所として根を下ろしていくことができますように、「地球っ子広場」のスタッフの方たちと青少年愛護協議会と手をとりあって、活動していきたいと思っています。

「子どもの居場所づくり推進」実践交流会

熊本

熊本県内において、熊本県地域教育力活性化推進協議会による、子どもの居場所づくり事業実践関係者の交流会が行われました。「地域子ども教室実施の中核的役割を担っているコーディネーターや安全管理委員など関係者が一堂に会し、指導者としての相互情報交換を行い、次年度以降の地域における子ども居場所づくりの定着促進を図る」という目的で開催され、熊本県内で子どもの居場所づくり事業を展開する42団体がパネル展示し、来場者や参加者に紹介し合いました。「地球っ子広場・熊本」からも基本姿勢や理念の紹介、作品展示などを行いました。熊本県教育委員会の方も、「地球っ子広場は理念が明確ですね」と強い関心を示されていました。



大学生の国際理解教育グループの協力

タカラヅカ

宝塚市長尾台小学校と宝塚市桜台小学校の両小学校で、子どもの居場所を作っています。100名以上の子どもたちが参加し、元気はつらつのエネルギーが爆発しています。この子どもたちのエネルギーを嬉々として受け止め、共に遊んでくれる心強い協力者がいます。関西学院大学「クラブジョーディ」のメンバーです。「地球っ子広場・タカラヅカ」に積極的にに関わり、開発教育(国際理解教育)に関するさまざまなプログラムを子どもたちに提供してくれています。



たくさんの留学生が参加

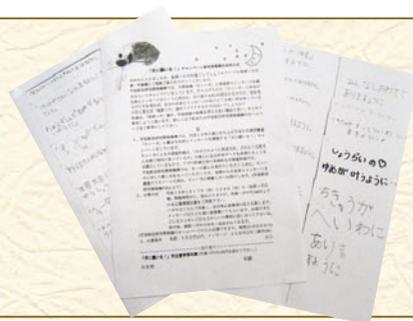
世田谷

たくさんの留学生が、世田谷にやってきます。「地球っ子広場」が始まった頃は、留学生が来ると「外国人だ!」と、反応をしていた子どもたちが、交流の積み重ねによって、皮膚の色や言葉の違いが気にならなくなり、自然に国際性が身につけてきました。「地球っ子広場」に参加した留学生たちから、「地球っ子では、自分が外国人なんだという疎外感が全くなくて、子どもたちが当たり前で接してくれるので、びっくりしたし、嬉しかった」との感想をいただきました。



「月に願いを!」 キャンペーンに参加!

宇宙航空研究開発機構が行う、月探索機「セレーネ」にメッセージを載せるキャンペーンに、「地球っ子広場・甲陽園」が参加しました。



「みんなが幸せでありますように」、「地球が平和でありますように」などの子どもたちのメッセージが数々。



【地球っ子広場おきなわ】新しい「子どもの居場所」として4月に開設した同会。地域の子どもや大人が集い、共に学び合っている。大会参加で一つの目標に向かって力を合わせる楽しさと達成感を分かち合い、すてきな思い出をつくりたい。

琉球新報 平成18年8月6日

五井平和財団による「子どもの居場所づくり」事業計画

Ⅰ 五井平和財団「地域子ども教室推進事業」の推進体制

(1) 推進母体 財団法人五井平和財団が、文部科学省より直接「地域子ども教室推進事業」の委託を受け全国展開していく方向で実施いたします。

(2) 運営委員会 五井平和財団内に運営委員会を設置しています。

① 名称 【五井平和財団内 「地球っ子広場」運営委員会】

② 構成員 (五十音順)

● 委員長 富岡 賢治 (群馬県立女子大学長)

● 副委員長 富田 興次 (財団法人五井平和財団常務理事・事務局長)

● 委員 有友 淳 (元富士通株式会社海外統括営業部長)

内山 宗昭 (工学院大学助教授)

小野寺 蔵 (財団法人青少年野外教育財団専務理事)

出口 隆之 (財団法人五井平和財団業務担当ディレクター)

堀川 香織 (医療法人堀川会常務理事)

(3) コーディネーター 各居場所1名ずつ全国29ヵ所に配置

(4) 会議 運営委員会 年3回 (5月・10月・1月)

コーディネーター会議 年2回 (10月・1月)

研修会 (コーディネーターと安全管理員を対象に行う)

● 全体研修会 年1回 (8月)

● 地区研修会 全国5地区 各地区年2回 (5月・12月)

Ⅱ 五井平和財団「地域子ども教室推進事業」の事業内容

(1) 事業名 **地球っ子広場**

(2) 基本姿勢

「地球っ子広場」では、人との出会い、心のふれあいを大切にした活動を展開する中で、体験的な異文化理解ならびに「心と生命」についての本質的理解を促し、子どもたちが愛と調和と感謝の心を育むお手伝いを致します。また、この事業の推進を通じて、子どもたちが広く社会とふれあえる和気あいあいたる居場所を創出するとともに、保護者・地域の人々が集い大人も子どもから学ぶ場として発展させていくことで、よき地域コミュニティづくりへの貢献を目指します。

(3) 活動概要

これまで駐日各国大使館、国連、ユネスコなどさまざまな国際機関の協力を得て、「駐日外交官による交流プロジェクト」、「国際ユース作文コンテスト (文部

科学省後援)」、「国連『国際平和デー』教育プログラム (文部科学省後援)」などの新しい国際理解教育のプログラムを開発・推進してまいりました。この度は、そのような経験を生かし、各国の国際理解教材を活用して世界の文化・芸術・音楽に直接触れる体験をはじめ、現職の外交官との生きた交流や国連が提唱している平和行事への地域ぐるみでの参加など、特色ある内容を豊富に盛り込んだ多彩な活動を通じて、国際人としての資質を育みます。

あわせて、世界平和の実現に向けて著しい貢献をなした偉人の伝記など新旧様々な英知に触れることで、人間の素晴らしさ、生命の尊さ、愛や思いやりの大切さなどを体験的に学びます。こうした活動を通じ、子どもたちが自らの夢を描き、それを実現する力を養います。

実践ガイドライン(安全管理等) ー抜粋

『地域子ども教室推進事業<安全管理マニュアル>平成16年5月文部科学省』

<http://www.ibasyo.com/office/group/pdf/manual.pdf>

を参照の上、各居場所ごとに地域・内容に則した安全マニュアルを作成しました。

- 施設の出入口の安全、避難経路は毎回確認しましょう。
- この事業に参加する子ども・指導者は全員、「スポーツ安全保険」への加入が必要です。
- 救急箱は常備しましょう。内服薬は原則として服用させません。
- 保護者の協力を得て、各家庭との健康調査カード(情報管理には厳重注意)を作成しましょう。
- どの地域の子どもが居場所までどれくらいの時間をかけて通ってくるのか把握しておきましょう。住宅地図があると便利です。
- 居場所の活動時間に診療してもらえる最寄りの病院を調べておきましょう。また、緊急時について、各居場所で作成し、各家庭の連絡票とともに保管しましょう。
- 活動時間中に子どもたちが施設の外に出ないように指示しておきましょう。
- 居場所への訪問者には注意しましょう。事前連絡な

く子どもを迎えに来た場合、誰が迎えに来たのか必ず確認が必要です。

- 自宅との往復について。自転車の使用については、各地の実情に応じてお決め下さい。
- 帰路、子どもたちには自宅まで寄り道しないで帰るよう指示しましょう。
- 帰路、日暮れが早い冬季や風雨が激しい場合、指導者が子どもたちを自宅近くまで送ってゆくこともよいでしょう。
- 自宅との往復の安全については、必要に応じて保護者の協力も呼びかけましょう。
- 子どもたちが刃物を扱う場合、正しい使用方法や態度を説明しケガをしないよう巡視しましょう。また、刃物の配布や回収、管理を徹底しましょう。火を扱う場合も同様の注意が必要です。

*安全に活動するポイントは、病気・ケガをさせない配慮、プライバシーの保護、不審者対策、災害・緊急時の避難・連絡です。この要点をしっかり抑えて、各居場所に応じた体制を整えましょう。

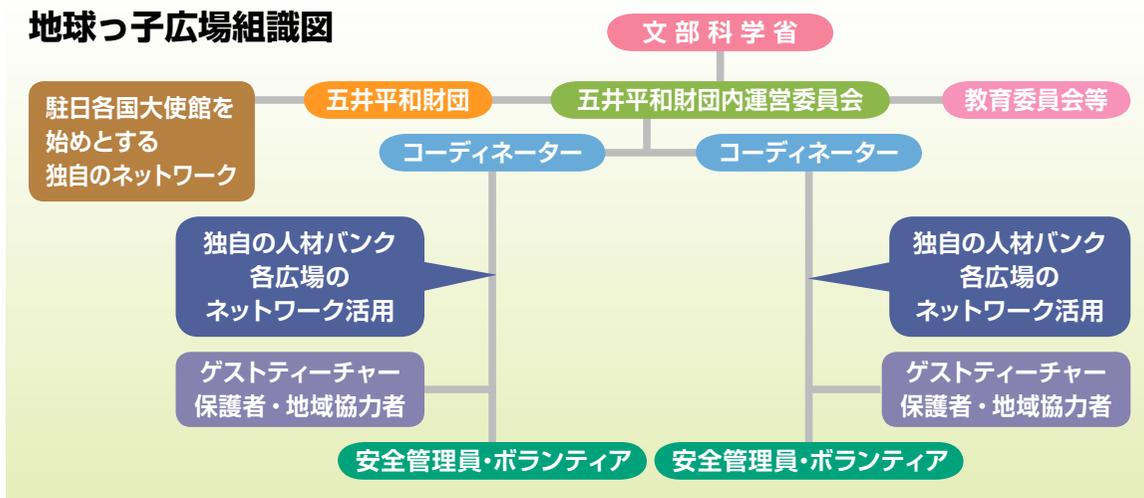
コーディネーターの役割

- 1 五井平和財団事務局との連絡調整
- 2 各地域の「地球っ子広場」の運営・管理
- 3 本事業の推進を通じた様々な地域ネットワークの構築

安全管理員の役割

- 1 各地域の実情に応じた活動プログラムの企画・開発
- 2 教室実施のための準備・片付け
- 3 子どもたちの指導
- 4 子どもたちの安全確保
- 5 必要に応じて、コーディネーターの補佐

地球っ子広場組織図





「子どもの居場所づくり」キャンペーン
文部科学省

地域子ども教室推進事業 「子どもの居場所づくり」

文部科学省では、地域の大人の協力を得て、地域に根ざした多様な体験活動や交流活動等の機会を提供することにより、社会全体で子どもを育む環境を充実させ、地域の教育力の再生を図ることを目的として、「地域教育力再生プラン」を立案し、それを事業化、推進してきました。平成16年度から始まった「地域子ども教室推進事業」(子どもの居場所づくり事業)は、その「地域教育力再生プラン」の一環として位置づけられている3年間の事業で、平成16年度は全国5,364ヵ所、平成17年度は7,954ヵ所、平成18年度は8,318ヵ所で開催されました。

地域の大人たちが安全管理員、指導員として協力して子どもたちに安全で安心な活動拠点として開放している「子どもの居場所」では、様々な活動が実施されました。

文部科学省は、これまで3年間にわたって「子どもの居場所づくり」が地域独自の取り組みとして定着し、継続した実施が促進されるよう、実施の中核的役割を担っている人材の育成や相互情報交換とネットワークづくりを支援してきました。平成19年度以降、この実績を踏まえ、少子化対策として、「放課後子ども教室推進事業」を新設し、厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」と一体的、あるいは連携した総合的な放課後対策「放課後子どもプラン」の一環で、全国10,000小学校区において実施する予定です。

「地球っ子広場」公式ホームページ

<http://www.earth-kids.net/>



平成18年度「地球っ子広場」事業報告書
平成19年3月25日 発行
発行/財団法人五井平和財団内
「地球っ子広場」運営委員会
(文部科学省委託事業)

〒102-0093東京都千代田区平河町1-4-5平和第1ビル
TEL 03(3265)2071 FAX 03(3239)0919
E-mail : kids@goipeace.or.jp
<http://www.goipeace.or.jp>

●転載ご希望の方は五井平和財団までお申し出下さい。

生命憲章

■ 前文

地球は進化する一つの生命体であり、地球上のあらゆる生きとし生けるものは、それぞれがみな、地球生命体を構成する大切な一員であると考えられる。従って、私たち人類は、お互いに地球生命共同体の一員としての自覚を持ち、地球の未来に対して、共通の使命と責任を果たしてゆかねばならない。

地球進化の担い手はつまるところ私たち一人一人であり、平和の実現は人類一人一人の責任と義務に他ならない。

現在に至るまで、人類の多くは足ることを知らず、有限なる資源と領土をめぐる争いが、世界各地で繰り返されてきた。その結果として、地球環境に対しても多大なる悪影響をおよぼしてきた。新千年紀を迎え、世界平和実現の成否は、何よりも人類一人一人の意識の目覚めにかかっている。

今や人類すべてがみな自分自身の心の中に、平和と調和の世界を築いていくという、誰一人として免れることも怠ることも出来ない共通の使命を課せられているのである。

そして人類一人一人がこの共通の使命を認識し、お互いに強く結ばれていく時に、真の世界平和は達成されるのである。

今日まで、人類は、権力においても、富においても、名誉においても、また知識や技術や教育においても、それを持てる人、国、組織とそれを持たざる人、国、組織とに分れてきた。そしてそれを与える側と与えられる側、救う側と救われる側とに分れてきた。

「生命憲章」では、それらの二元対立や差別意識を超えて、すべての個人や様々な分野が参加し、まったく新しい理念のもとに平和な世界を築いていく方向を提起するものである。

■ 原則

新しい時代を迎え、人類の進むべき方向はすべてに調和した世界である。つまり、すべての個人や国々が自由に個性を発揮しながらも、お互い同士、またあらゆる生きとし生けるものとも調和し合える世界である。そのような世界を実現するための原則は；

1 生命の尊厳

すべての生命を尊重し、愛と調和を基調とした世界。

2 すべての違いの尊重

異なった人種、民族、宗教、文化、伝統、習慣を認め合い、尊重し合い、その多様性をたたえ合い、喜び合える世界。

そして、社会的にも身体的にも、精神的にも、また、あらゆる面において、差別や対立のない世界。

3 大自然への感謝と共生

人類は大自然の恩恵により生かされていることを認識し、動植物をはじめ、すべての生きとし生けるものに対し感謝の心をもって接し、大自然と調和、共生していく世界。

4 精神と物質の調和

物質偏重主義から脱却し、人類の健全なる精神性が開花した、精神文明と物質文明のほどよく調和した世界。物質の豊かさだけでなく、心の豊かさが価値を持つ世界。

■ 実行

個人として

従来の国家、民族、宗教が権威と責任をもつ時代から、個の時代へと変わってゆかねばならない。個の時代といっても個人が自己中心的に生きるということではなく、個が自立をし、人類の一員としての意識をもって、それぞれの責任と使命を果たしてゆく時代へと変革させていくことが必要である。

そして個としての最大の使命は、それぞれが自己の中心に愛と調和と感謝の心を築き上げていくことである。

専門分野として

教育、科学、文化、芸術、宗教、思想、政治、経済等、様々な分野がそれぞれの専門知識、技術、能力を最大限に発揮し、平和世界実現に向けて、英知の結集と、協力体制を構築していく。

若者として

20世紀においては、親が、先生が、社会が、子どもたちを教え、子どもたちは常に教えられる立場にあった。21世紀は、大人も子どもから純粋性、無邪気、明るさ、英知、直観など子どもの素晴らしさを学びとり、共に高め合う生き方が大切である。

そして、未来に向けて子どもや若者が、平和創造の担い手としての積極的な役割を果たしてゆかねばならない。



「子どもの居場所づくり」キャンペーン
文部科学省



財団法人 五井平和財団

TEL:03-3265-2071 FAX:03-3239-0919 E-mail:kids@goipeace.or.jp
〒102-0093 東京都千代田区平河町1-4-5 平和第1ビル <http://www.goipeace.or.jp>